

加古川市スマートシティ構想（案）

【概要版】

令和3年1月
加古川市

1

構想の概要

(1) 構想の趣旨

日本では、急速に進行する少子高齢化及び人口減少、社会インフラの老朽化、自然災害の大規模化など、さまざまな分野において、新たな課題への対応や解決が求められています。

日本が目指すべき未来社会の姿として提唱されている「Society 5.0」の実現の場と言われているのが「スマートシティ」であり、世界において ICT などの先端技術を活用して都市課題を解決し、持続可能な都市として機能する「スマートシティ」の実現に向けて動き出しています。

本市においても、人口減少、少子高齢化による人口構造の変化、公共施設や社会インフラの老朽化、ごみ減量などの環境問題、ICT の急速な変革への対応などの課題に直面しており、今後、ICT を活用しつつ市民生活の質の向上や市民満足度の向上を図りながら、市のさまざまな課題について、テクノロジーをその手段とし、市民のみなさんと解決する「市民中心の課題解決型スマートシティ」を目指し、「誰もが豊かさを享受でき、幸せを実感できるまち加古川」を実現するため「加古川市スマートシティ構想」を策定するものです。

(2) 構想の位置付け

年度 (西暦)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
総合計画	基本構想 (10年間)						加古川市総合計画 (6年間)					
	前期	後期総合基本計画 (5年間)				一体的に推進						
総合戦略	第1期 加古川市総合戦略 (6年間)						第2期 加古川市総合戦略 (6年間)					
人口ビジョン	加古川市人口ビジョン (~2060年)											
スマートシティ構想							加古川市スマートシティ構想 (6年間)					

(3) 構想の期間

2021年度～2026年度（令和3年度～令和8年度）

（前期：2021～2023年度／後期：2024～2026年度）

2

構想の基本的な考え方

(1) 基本理念

誰もが豊かさを享受できる スマートシティ加古川

～「幸せを実感できるまち加古川」の実現に向けて～

(2) スマートシティ推進の5原則

スマートシティの推進には、市民の皆さんや自治体、民間企業や団体等といった様々な方々が関わることとなります。

そのため、実現において共通で守るべきルールとして、G20 Global Smart Cities Alliance が提唱する以下の5原則を掲げます。

- ① 透明性とプライバシー保護 (Transparency & Privacy)
- ② 安全・安心・回復性 (Safety, Security & Resiliency)
- ③ 相互運用性とオープン性 (Interoperability & Openness)
- ④ 公平性、インクルージョン、社会的影響 (Equity, Inclusion & Societal impact)
- ⑤ 運用面と財政面の持続可能性 (Operational & Financial Sustainability)

3

施策体系

基本目標 1 市民の QOL や利便性を向上するサービス

- ① いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続の実現
- ② 誰にでもやさしい窓口環境の実現
- ③ 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信
- ④ 安心して子育てをできるまちづくり
- ⑤ 高齢者にやさしいまちづくり
- ⑥ GIGA スクールの推進 (デジタル教育)
- ⑦ 行政情報の見える化

基本目標 2 ICT を活用した都市機能の強化や都市課題の解決

- ① 快適に移動できるまち
- ② 安全・安心のまちづくり
- ③ 災害に強いまちづくり
- ④ にぎわいのあるまちづくり
- ⑤ インフラの整備及びメンテナンス

基本目標 3 デジタル行政の推進

- ① 情報のデータ化によるスムーズな窓口対応
- ② 最新技術による徹底した業務効率化
- ③ どんな時も業務継続を可能とする体制づくり
- ④ 多様なデータの利活用による新たな行政サービスの実現
- ⑤ スマートシティアーキテクトの育成

